



水泳



ぼくは運動が好きです。走るのとは三年生では一番はやいと思います。

そんなぼくにもにがてな運動があります。それは、水泳です。

六月になって水泳のじゅぎょうが始まると、「泳げないのになんでやらないといけない。」と怒ってしまいます。ぼくは水にはうけないのに、今年はプールの深い方で練習をします。

さいしょのじゅぎょうではじめて深い方に入りました。こわかったけど、入ってみるとおどろいたことがありました。はじめて入った深いプールは足がとどきました。立っていきもできます。少しこわさがなくなりました。

でも、もつとおどろいたことがありません。

二年生まではぼくといっしょで水をこわがっていた友だちのりゅうせいさんが泳げるようになっていました。りゅうせいさんは、「やったらできるよになるよ。」と、ぼくにじしんをつけてくれました。

でも、一生けんめいいうこうとしても、やっぱりうきません。

すぐにしずんで口にもはなにも水がきてバタバタとしてしまいました。

「ごうやたらうけるの。」と聞いてみました。「なんにも考えないでやると、うかべるよ。」

ぼくはうこうとするとき何を考えているだろう。「おぼれたらごうしよう。こわい。やりたくない。」いろいろなことを考えていました。

何も考えないことを考えてやってみると体はふわつとかるくなったみたいになんかうかびました。うかべたら水泳が楽しくなりました。

学校のプールのじゅぎょうは、校内水泳大会に向けた練習になってきました。

泳げる友だちは、自由形、平泳ぎの二十五メートル、

まだ泳げないぼくは、ビートばんきようそうに出ることになりました。

練習ではじめプールのよこをビートばんきようで泳ぎました。

先生のふえでみんながスタートします。みんなはどんどん先に進みます。

でもぼくはどれだけ足を動かしても前にはすすみません。

「なんでみんなははやくすすめるんだらう。」

みんなみたいに泳げるようになりたくてお母さんにたのんで

町のプールにも練習に行きました。

何とも何とも練習しているとスイミングスクールのコーチに声をかけられました。

「手で頭をかくして、あごを引いたらいい。」

知らない人だったけどやってみるとすぐに前にすすめるようになりました。

学校でもみんなと同じぐらいのスピードですすめました。

水泳のじゅぎょうがもつと楽しくなりました。

本番当日、きんちようしたけど「ぼくならできる。

りゅうせいさんとコーチをしんじて」と思ってやってみると、

二十五メートル足をつかないで泳ぎまわることができました。

ぼくの泳ぎを見てくれていたりゅうせいさんに、

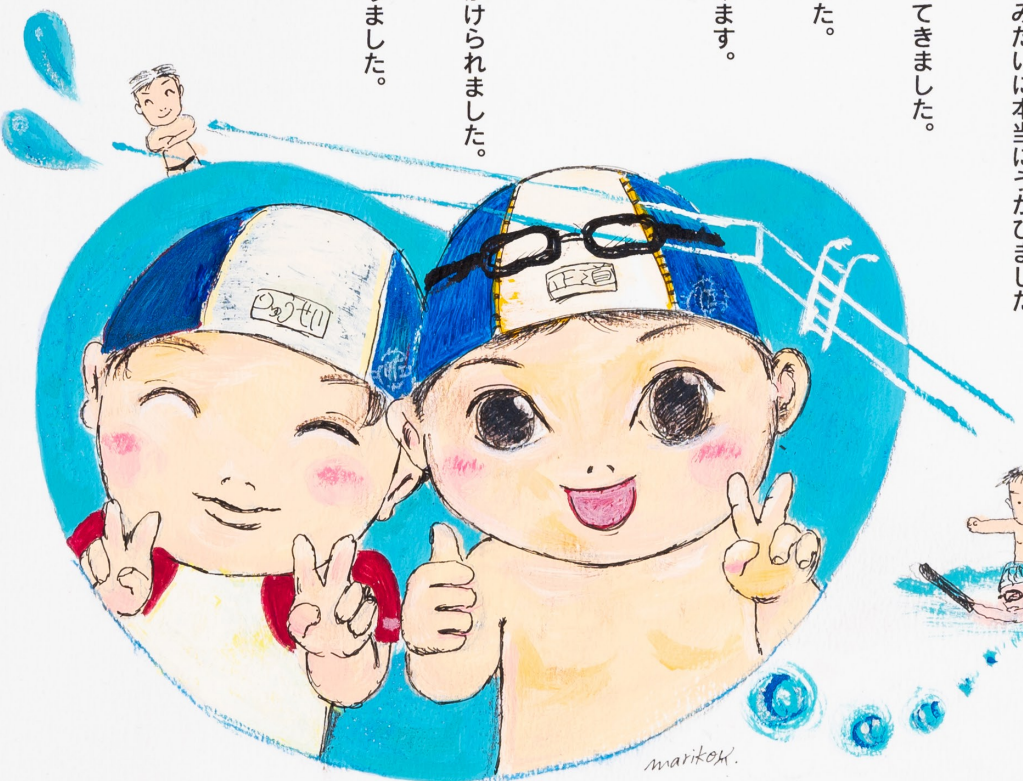
「すていよ。来年泳げるようになったら

いっしょに二十五メートルでしようぶしよう。」

と言われました。

ぼくは、ぜったいにまけたくないから

また練習に行こうと思いました。



さつま町立佐志小学校 三年

久保 蘭 正道

絵 梅村 万里子